

西洋道中膝栗毛 十二編 下

10

15

20

25

30

A 750

21

40-7783

西洋道中膝栗毛十編下

東京 假名垣魯文著述

丸太嶋の産物ハ冊冊殊多ク一と及び弥次希北八の如
人のことを辨めり本は入船帆の上ハ大利を得んと
要欲小なる大欲の真逆思案の中をぐるふ通は希を
その下し風待の間小く入りち連バウテイラより上陸
あろけは知彼所とて巡りあづらエモシ通さん當時
あやア日本よりも遅くさうなごころの速くちがよつて

西洋道中膝栗毛

八分珠三百両前後だうら明石や煉物だうらやるのも
 冊物の位がよつたうらの思ひつたご子とさういふ
 の泥山あるやうを安速買込で扱ふへ持つてぬりや
 金の買込を仕込んでゆくさうつたがウレと利回りやア
 山がたどらうかめ入法利して成実安く買入さうか
 うるあせ入^通サントそこら僕の前様ふある筆だふ
 男入が持込さうさるから君達の黙止さうさる
 せん免角着法はさうたがら買たがらず中その

利を付り彼ふ大損さう我ふ小利を放るさう
 う彼ふ大利の基ひをひらうの理だうら海付て
 遠くさるさうハテせのさ事をしてせんさるズツ
 僕ふさるさるさう^{トヒと}さるさるさるさるさるさる
 けさるさるさる日本の鬼灯より泥山あるさるさる
 からさるさるさるさるさるさるさるさるさる
 ら日中入たとさるさるさるさるさるさるさる
 さるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

ちやアねへりあしそんる相場ふありねへるあや
 買ひねへりあしそんる相場ふありねへるあや
 北^北のふ分をかゝらとあて三かごとなりたう大さ
 のをあらで十五ドルで賣るめへ子^子どろだろモウ
 一度うけあつて三やう^{トモ}異人ゆりちゆひ其倍ゆり
 け^北の北や五かぐらあるのを十ヲ十ヌドルで買ひ賣り
 やア弗の相場がきあつて十五あ^あそののを^あ國へ持ッ
 う^あゆりやア宮川^あの店^あや丸^あ患^あの店^あへ^あま^あ込^あシ

ても一粒二十あ^あと^あそ^あ二百あ^あ大^あ高^あ法^あく^あ北^北あ^あじ
 性^性へ^へと^とう^うだ^だら^らう^うひ^ひよ^よと^と煉^煉物^物あ^あや^やある^{ある}め^めへ^へ小^小判^判で
 と^とあ^あつ^つて^て後^後で^で入^入ると^と本^本の^の筆^筆小^小愛^愛ッ^ッたり^{たり}か^かい^いら^らん^んだ
 と思^思つて^て抱^抱く^く寐^寐ると^と夜^夜が^があ^ある^る石^石地^地終^終ふ^ふか^かぢ^ぢり^りの
 イ^イて^てあ^あつ^つて^てあ^ある^る一^一が^があ^ある^る安^安お^おを^を買^買つて^て鼻^鼻を^を洗^洗
 ち^ちや^やア^アあ^あの^の足^足以^以程^程ダ^ダた^たら^らる^るう^うこ^こづ^づり^りを^を起^起す^す男^男だ^だと
 ハ^ハテ^テよ^よく^くお^おを^をつ^つめ^めり^りく^くえ^える^る日^日本^本の^のお^お地^地る^るあ^あら^らあ^あん
 う^うは^はあ^ある^るん^んど^どあ^あや^やさん^{さん}と^とあ^ある^る我^我の^の赤^赤玉^玉神^神教^教九^九より



りとも怪イものだぜるへいりやいもの。あつちの黒
ン坊めらも安給金で抱くからヨ毎日ノ年國奉
中漁獲込ませで維木どうせんふ生てあるさん。村
と器械をとりて昔ある。碇上げはしうけ。碇連
がのし隙をあらきふ刻むやふふ中て賣だうら
日中相協を考うちやア安イんだとあけき。船
十で十五ドルあらかく別あいのんやアおへめ
シギア彼兄のきふもあつちのねかんぐりをし。運

もんたうら定例でも利運。そのまのま。自じがえん。い
あ法ふ立合も遠があののうそこの井但や。日給
で修りあ。このへい。テド人あ。んだエ。北。そ
あ。ら。健へ。の。け。び。ツ。ヤ。見。る。せ。人。立。合。玉。指。ひ。く
あ。が。出。ま。さ。さ。う。だ。ぜ。あ。め。く。一。人。だ。有。こ。う。く
そのうの大極と。吉ヤイ。北。や。その。出。さ。つ。ら。く
ふ。モ。ウ。十。ヲ。買。ふ。と。あ。わ。う。ど。や。ア。ね。人。う。通。ま。が。セ。ド。ル
ま。が。別。合。ッ。て。出。ま。さ。く。ト。通。は。し。あ。人。より。十。ド。ル。け
と。り。さ。ん。ご。ま。の。ひ。に。人。ふ。黒。人。

だらうと云はさんだらうと自己だして其の縁を二知おさる
 かめ人対して後日不実な約束をよめるやうなる
 心持を知らぬ人平た見事うらむらしくは附合
 ておるうら大恥あるやうなるおるうらそらるる人
 ぢやアおるうら云はさん云はさん云はさん云はさん云はさん
 通さんこれら其吉利へ就てサ祝方にも大なる法
 とらうと賣つたり買つたりしうと二月と去年も店
 てまうらアメラ海とて亞墨利加へつたつてサとてとて

「サンフランシスコ」ニウヨルク」あたりで又下る法おこ
 る目論だらうと云はさん云はさん云はさん云はさん云はさん
 立ッラちぢやアさんでぢやもの相場だらうと云はさん云はさん
 があるもぢやアさんでぢやもの相場だらうと云はさん云はさん
 があるもの子とてぢやうらおめ人別をを出すも
 ぢやね人のだらうと云はさん云はさん云はさん云はさん云はさん
 ある人ハテサ三國志の文ぢやアおるうら同年同月同日お
 しまはさん云はさん云はさん云はさん云はさん云はさん

同年同月同日同刻ふ死にてもあるふ海へ中あやアねん
 そんなことなどでもらしてあらでんあせア通
 さん一寸かさうるをともあせうけ牛肉のうらぬ佳味
 せ食でござんく 北「ア今日ハ強勢ふけヤス子モウ
 ぞねだかりおあやうく トあ人々うらうらつたうく
 かきとさう通「イヤ酒も肉もモウいけやせんあめ人
 ぶたアかつう僕もどぬりつけろ分割を極めん
 もりだねはふ入ッてはふ從へた人日本人どうしで

らうが外海の旅ともりわアか必流で西洋も法あり
 親疎の區別のねんつけ子たえんあどうやうあね
 めらうも法とも組ちやア錢金の他人ダコレ僕も苟も
 西海の伝教と學んで航海の柱礎ふ送まれろま
 た男ダエビシの横文一字一息海よの東西南北も分ら
 ねんかめんぐふ商法の上でこめられちやア天は上
 米も食ッちやア通らもねん口幅ッて人々あんだ十
 ハのとれ長崎うら外國船へ組を輕んで横濱の本



のよくなり三肘ふとせしむるあり弥次北八のありよる弥
 どるひびきあり通り市がわらわびきやうふさうとして

とを解いてゆるせるのだにエ北へシぢやうりだう草鞋だう草らう

中筋も廢も一死だうどうせならッちやアッちやねん
 が金つちの金で買つてさんごちやもごちやふねん
 をかけ合つてもらつたのどうらその謝儀へけ方の様
 子だア日本へ歸つてあまをもちやア世間並のれと
 もるから騒ぐめやアあたらねんそれごらけりやア
 どうでもあるせん通ア、さうさぬ違のやうな野暮ふ
 やア一通りの税得ちやアどうもめんこれうら税方の
 耳へきて裁判してめらめやアたのちねん
 通ア、さうさぬ違のやうな野暮ふ

弥次さんと北さんがあんなにも買ってらるると聞いてた
 のものぐゲスうらよんどころなく價の安いひた
 ひあわーたが儲物とめてぶやうな手とでたるにどく
 ゲス子ひろーイヤあそくらとべともるとさる奴よりうう買ふ
 方があつたサあんやさんごちあらう江山ある土地だと
 いッたツてこそあつてもも殊とこ分りませぬであらう
 まだうと外お人おかつておせられるのびんナアせいぞろ
 マルタ番あんぞめあるさんごとのかじあたといッても

英吉利の高官がみづから金に上物の他は
 の者のみ小遣さばふけとあつこよりつうら
 老だらうくる珠のありやア老ね人あじや品もの
 でもやんものあらちつとの並おのあけまどこりやア
 冊々殊ふけ目とを珍麗あけて潤毛をじたるごう
 ら日本の如石玉より並おのね人ハナをして二十ドル
 出たといふが何処を目的に買イ込んだのだとホン
 ニとめつて客人だぜそんなことあやアこもつら英吉利

題花街秋

通次郎

弥次



供七

玉のよるみ

目触り

燈籠

うさぎ

美洒雄

商吉



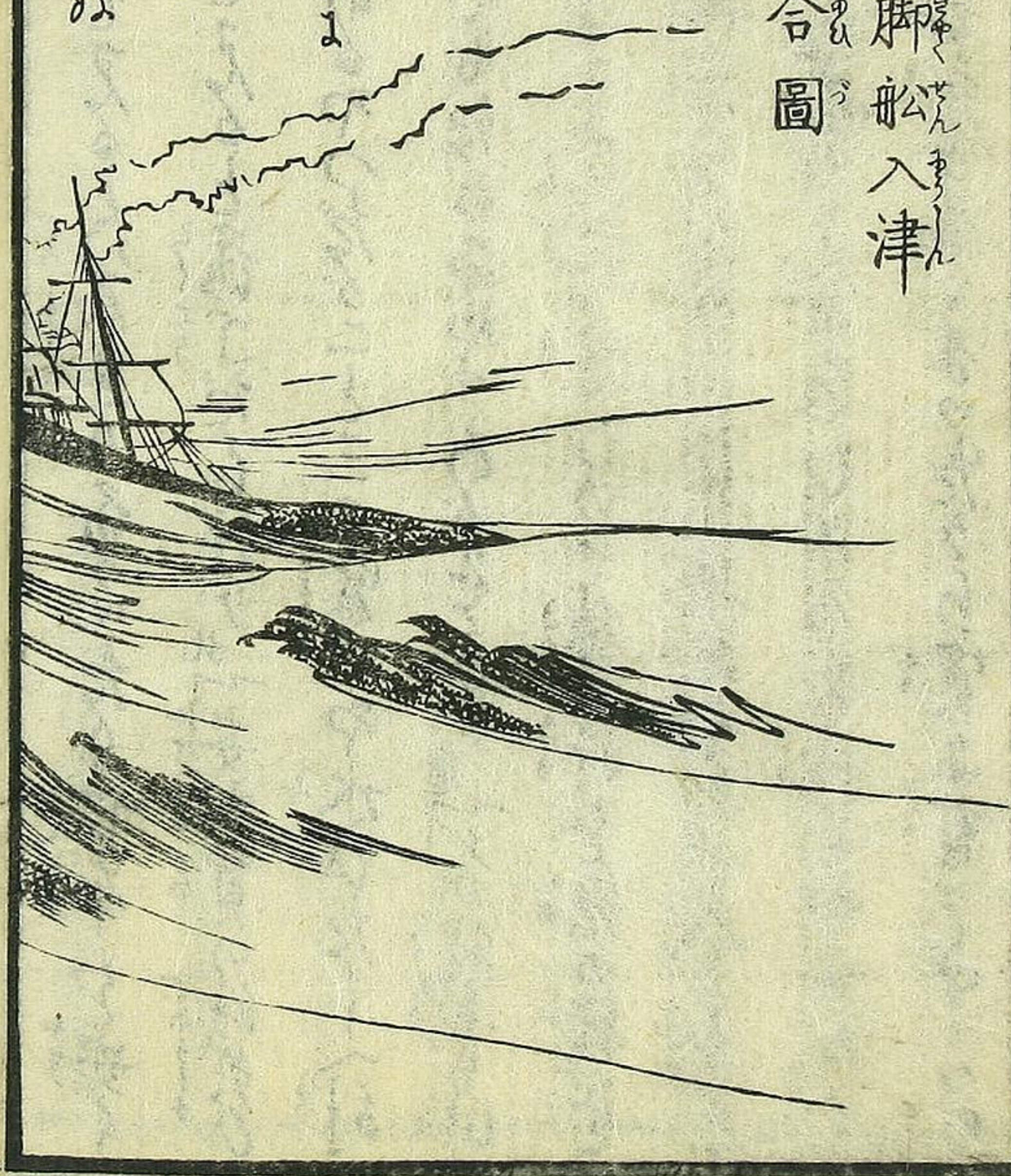
北八

徳の基^とこれ^うら^える^る 悟^{あや}覧^ら會^ひといふ大^{おほ}徳^{とく}ありし二番^{ふた}月^{つき}の
あめ^{あめ}り^りか^かの大^{おほ}舞^ま臺^{だい}でカリホルニヤの山^{やま}と堀^{ほり}て金^{きん}銀^{ぎん}
を^をり^りと^とほ^ほる^る策^{さく}が^があ^あり^りや^やせ^せう^う何^{なん}の^の十^{じゅう}五^ごと^とわ^わこ^こ十^{じゅう}弗^ふ
風^{ふう}華^かの^のや^やう^うあ^あり^りん^んで^でゲ^ゲス^ス 一^{いち}ふ^ふう^うぢ^ぢん^んふ^ふ物^{もの}鐘^{かね}で^でま^ま
尼^にち^ちん^んぢ^ぢの^の過^かは^はう^う子^こ 一^{いち}ち^ちん^んぢ^ぢの^の犬^{いぬ}と^とま^まぢ^ぢう^うり^り強^{つよ}く^く
も^も納^なま^まら^らね^ね 一^{いち}ち^ちし^しこ^これ^れふ^ふこ^こり^りヨ^よで^でけ^けの^のち^ちい^いら^ら
つ^つう^うわ^わい^い買^かう^うふ^ふり^りせ^せけ^け方^{かた}と^とら^らの^のや^やう^うる^る奴^{やつ}だ^だら^らう^う夜^よ
見^みせ^せで^でる^る物^{もの}を^を買^かう^うて^て家^{いえ}へ^へ入^いり^りて^て安^{やす}き^きお^おも^もい^いん^んと^として^{して}登^{あが}
る^る

相^あ火^ひと^とし^して^て見^みる^ると^と一^{いち}尺^{しゃく}も^もあ^あら^らな^ない^い古^{ふる}本^{ほん}と^と安^{やす}く^く
買^かう^うて^て修^{しゆ}で^でる^ると^と遠^{とほ}く^くだ^だら^らけ^けサ^サ 一^{いち}安^{やす}物^{もの}買^かう^うの^の修^{しゆ}は^は
お^お昔^{むかし}つ^つう^うら^らあ^ある^るや^やつ^つだ^だと^と三^{さん}の^の家^{いえ}中^{ちゆう}や^や水^{みづ}ば^ばた^た一^{いち}引^ひ
か^かる^るの^の今^{いま}ぢ^ぢも^もた^たる^るあ^あや^やあ^ある^ると^とう^うだ^だ 通^{とほ}り^りが^が紙^{かみ}も^もい^い
二^に四^し年^{ねん}の^の末^{まつ}日^ひと^とふ^ふ閑^{かん}化^かが^が進^{しん}む^むの^ので^で様^{よう}の^の料^{りょう}を^を無^むの^の様^{よう}だ^だと^と
い^いふ^ふと^と田^{でん}舎^{しゃ}同^{どう}者^{しゃ}を^をだ^だと^とたり^り道^{みち}連^{れん}ふ^ふる^ると^と合^あ合^あと^とじ^じ
て^て茶^{ちや}や^や基^き將^{しやう}基^きと^と金^{きん}と^とむ^むさ^さり^りる^る様^{よう}も^もあ^ある^るた^たく^く
こ^こと^とと^とする^る者^{もの}が^があ^ある^るつ^つた^たら^ら実^{じつ}ふ^ふ有^ある^るこ^こい^いひ^ひ

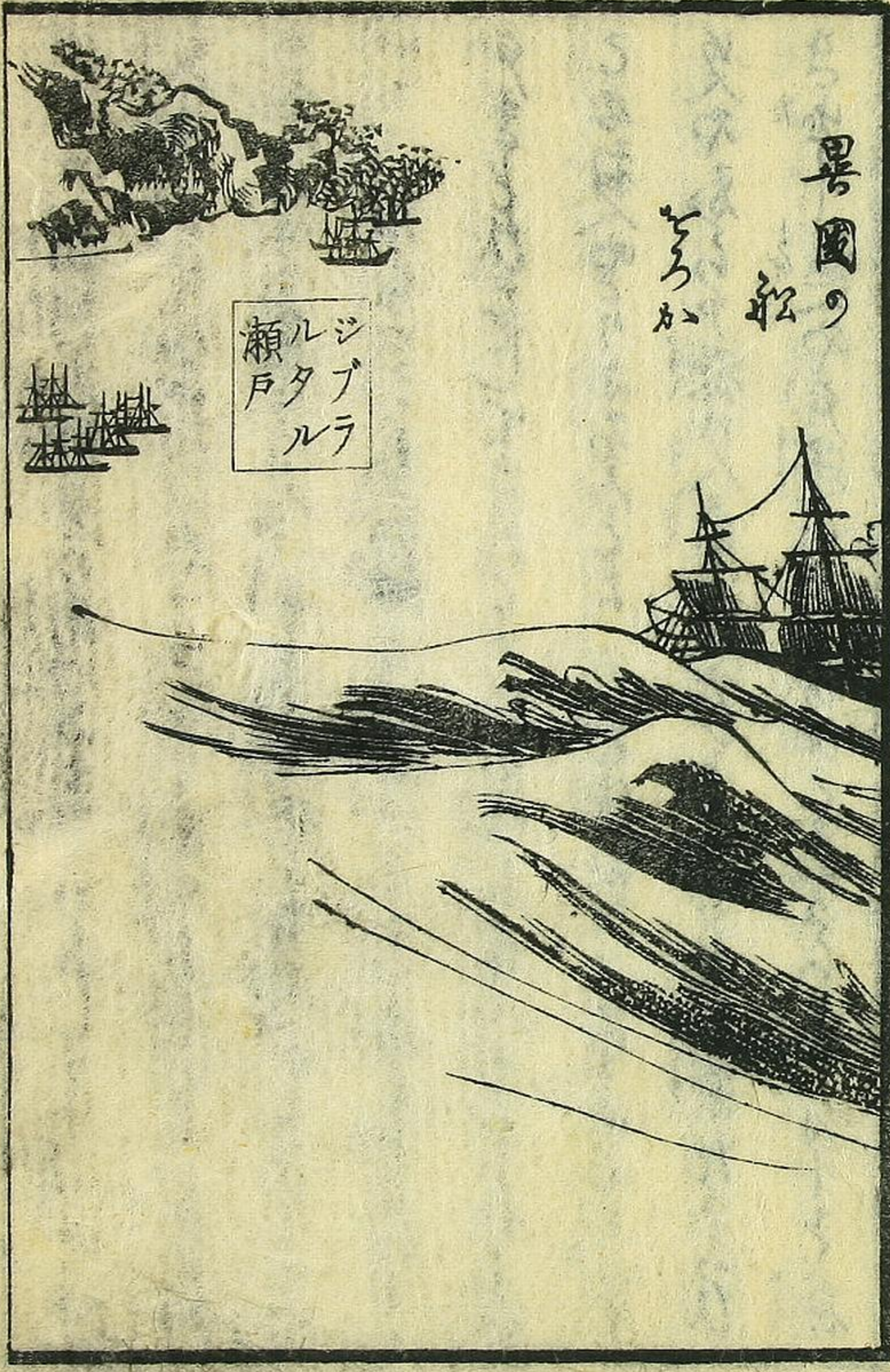
○蒸氣飛脚船入津
祝砲之合圖

立のり
煙の雲
おのり
おのり
おのり



異國の
船

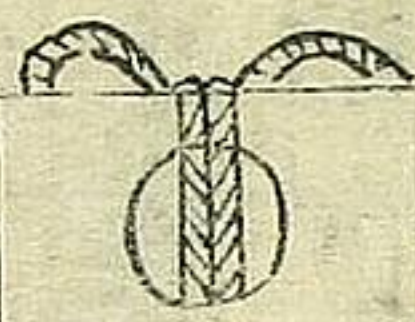
ルジ
タブ
ルラ
瀬戸



作者魯文看官へ謹んで告條

當編初輯より引続き御高評ふあがり三都府の
 勿論より外客より愛翫して國語國文共我國と通
 ぜ徒ら坐辺ふ置るるなと聞けり作者の面目
 何事う長ふ不如なけん遮莫英國博覽會とて大
 團圓とせもの欲す閑場よりの腹稿をもと第十編
 ふ結局せん目論より然りと云北亞墨利迦洲
 もの合衆國の方今五大洲中有名無二の富國として

其大都府華盛頓サンフランシスコカリホルニヤニウ
 ヨルクにやんと繁盛殊に勝ると聞ゆのから此編十五
 輯の結局は拾遺として



亞墨
夜話

西洋膝栗毛拾遺

初編



如此く表題と設計著述の腹稿意中ふ収めり當編
 る彼國へ航海せり友人の紀行を借得る目前の滑
 稽は僕が拙作の帳諧を潤色するたも佳真なり

深くもべき小冊子なり當年此編の結局發兌を待む
 まろく神速に著述の功を奏し引続きつゝ出板せむ
 く欲せむ大方の花主右の表題を暗記めひく不相變
 御求高覽の程一偏に冀望し奉る條を梓客萬笈
 閣主人と共に希ふ

魯文

西洋道中藤栗毛士編下之巻了

老實伏稟

御花主様方より

御目ごん能恐収至

極々ぞん奉隨て

私店にて製本仕西洋

藤栗毛の義日わは繁昌仕り有がれ

仕合存奉の叔作者魯文申候のみ

今更無益の戯作小日月を以り

庶事閑化の御治せむに恐り奉

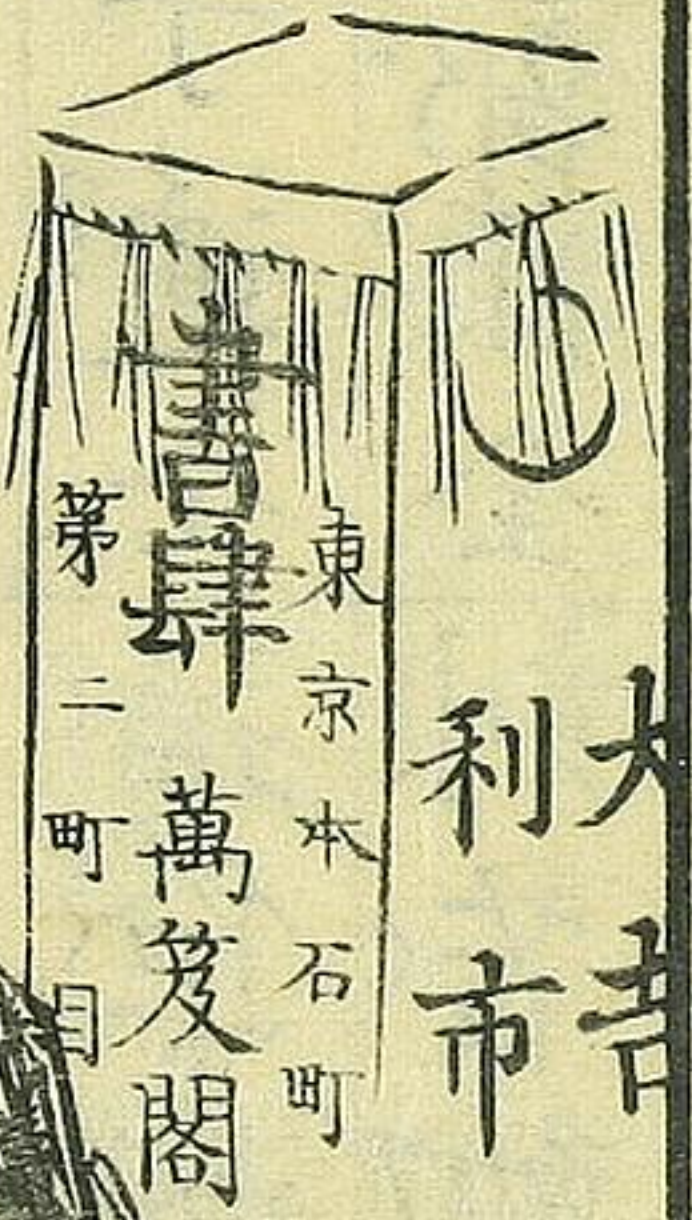
次第つゝ聊々御国益も相成るべし

小冊を著述仕り度と左の目録持参

致し付早速注文仕り間出板の節御求

御高覽のやと相變らば奉願上候

大吉市



板元

萬笈閣謹白

假名垣魯文著述目錄近刻發兌

世界都路五卷西洋畧會初編

女洋學道榮全橫濱往來全

訓蒙倭リードル全洋學進書三卷

洋名漢字通全通俗下情博覽二卷

英語のろは部類全刻苦勉強論二卷

發行書肆

心齋橋通南久堂等所	伊丹屋善兵衛
北久堂等所	河内屋源七
北久太郎町	河内屋喜兵衛
名古屋本町三丁目	菱屋藤兵衛
八丁目	菱屋平兵衛
日本橋通一丁目	須原屋茂兵衛
二丁目	山城屋佐兵衛
芝神明前	小田屋新兵衛
横山町三丁目	岡田屋嘉七
浅草茅町三丁目	和泉屋市兵衛
本石町二丁目	和泉屋金右衛門
	須原屋伊八
	梶屋喜兵衛

マ
ツ
ツ

